

# まちなみ通信 みのお

発行：NPO みのお市民まちなみ会議 第54号 2015年3月

## まちなみ景観とみどり

片岡 正彦

まちなみは、そこに住んでいた人々、また、そこに住んでいる人々が、生活の中で営々と作り上げてきたものです。そしてそのつくられ方は、その地方の風土と人間とのかかわり方によるものです。それ故、まちなみ景観は、それぞれの地域の特徴を色濃く反映しています。また、それぞれの地域でも、町や村によって独特のまちなみ景観があります。しかし、大都市では、どんどん似たようなまちなみになり、独自性が少なくなってきたのは、残念なことです。

都市景観の中でまちなみ景観に絞って、それを構成する要素とはなにかを考えてみます。まちなみを構成する要素は、単純に割り切れれば、道路とそれに面する建築物とになります。

道路はアスファルト舗装が中心で、石畳などは例外の場所ですから、景観に影響を与える要素としては、電柱、信号機、道路標示板、街灯などの構造物、そして街路樹が加わります。建築物は、中心街では建物やビルのデザイン（形、外壁の色・材料など）、看板、エントランス・植栽など、住宅地では、建物の形・色に加えて、門・塀などの外構、また植木・植栽や敷き際を花で飾るなどの要素があります。

それぞれの街で、何を都市景観の重要な要素として育てていくかは、そこに住む住民の考え方によるものであり、これを第一順位にすべきであるという基準はなく、それぞれの街の住民が、これが望ましいと考えればそれが重点順位となるでしょう。



山を背景に、みどりの生垣の連なるまちなみ  
箕面6丁目

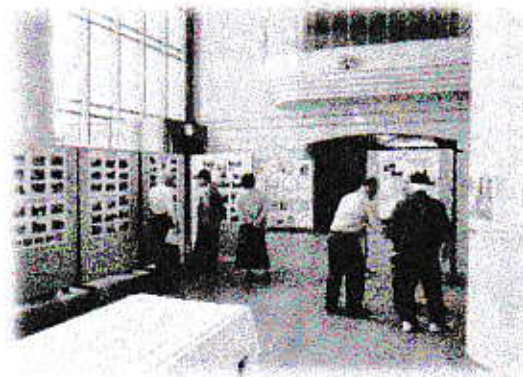
わが箕面を考えると、「箕面市みどりの基本計画」に、「山なみに抱かれみどり豊かなまち・みのお」と謳われ、また倉田箕面市長の市政運営方針の三本柱の一つに「緑・住みやすさ最先端」が掲げられています。箕面市は、市域面積の約60%が、「やま」であり、市街地から眺められる山なみの美しさは、箕面市の財産といっても過言ではないでしょう。市街地にも美しい豊かなみどりがたくさん



あり、また、山を背景にしたみどり豊かなまちなみ景観が随所に見られます。

優れたまちなみ景観としては、伝統的建造物群保存地区のように、美しい建物が連なるまちなみも数多くありますが、箕面では、やはり、「みどり」を生かした景観まちづくりが、多数の市民の合意を得られるテーマではないかと考えます。

こういう考え方の基に、みのお市民まちなみ会議では、「箕面のみどり」を活動の主要テーマに据えてきました。まちなみ会議は、この機関誌「まちなみ通信・みのお」の発行、まちなみパネル展、HPなどで、活動内容の情報発信を行っています。ここ数年は「まちなかのみどり」をテーマに、様々な切り口で、箕面のみどりの紹介、現状調査・分析や課題を取り上げています。



#### 第18回 まちなみパネル展 まちなかのみどり（メイプルホール）平成26年10月

平成24年から25年かけて、箕面市では初めてとなる市全域の「緑視率」の調査を行いました。

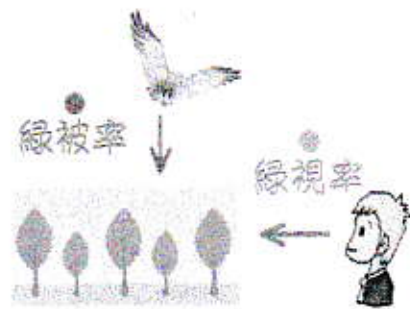
箕面市域で、500枚を超える写真を撮影し、

166地点の緑視率を測定しました。その詳細は25年3月に開催した「まちなみパネル展」にて多数の写真を使って発表、またまちなみ通信・みのお48号にても発表しました。箕面の緑視率は全市平均で、22.5%と他市と比較して高いほうであり、まちなかにあるみどりの量は、

ある地域に偏って存在しているのではなく、あちらこちらに平均的に分散していることが分かりました。

注) 緑視率とは、人の視野に占める樹木などの「緑の面積」の比率で、見た目のみどりの量を実感できる指標として、最近いろいろな自治体での調査・研究が進んでいます。大阪府では、24年、まちの緑視率(35地点)、25年、緑視率ガイドライン、みどりの風促進地域の緑視率(55地点)、26年、高層ビル・タワーから鳥瞰した緑視率を発表しています。

平成26年は、「まちなかのみどり」というテーマを掲げ、まちなかにあるみどりを、丁目ごと(箕面1丁目、小野原東1丁目など)に撮影しました。まちなかのみどりと言っても、さまざまなタイプのみどりが存在します。そのためそれらを

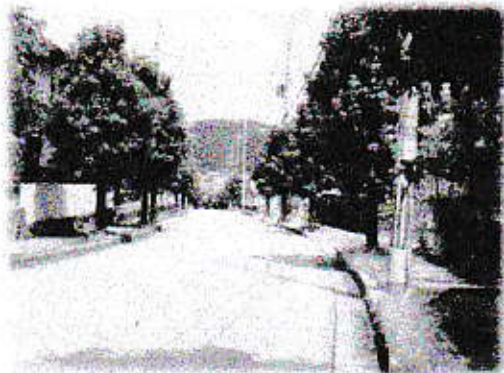




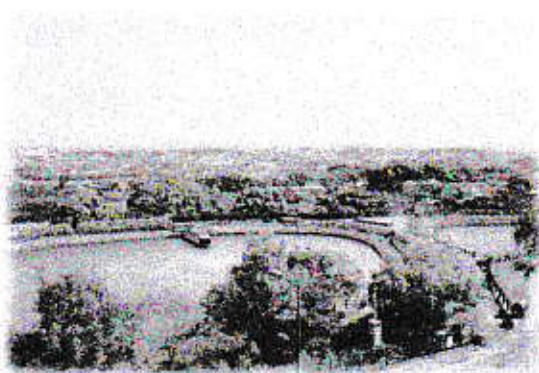
さらにキーワード別に分類してみました。

具体的には、行政が管理・維持している「公のみどり」として、街路樹、公園、河川、公共建築物・学校など、市民・お店・企業などが、維持・育成している「民のみどり」として、玄関先やお店をみどりで飾る、生垣・庭木、マンション・集合住宅の植栽、鎮守の森・お寺のみどり、田園地帯、ため池、保護樹木（巨樹）・樹林などなどです。

### 《公のみどり》

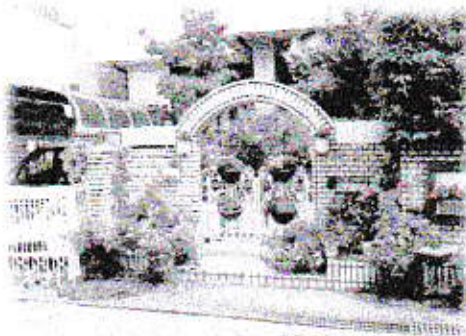


街路樹のある道路 小野原西3丁目



ため池を生かした公園 新稲2丁目

### 《民のみどり》



玄関先を花で飾る 萱野2丁目



大樹を残したマンション 箕面5丁目

こうした「まちなかのみどり」のタイプごとに、それぞれの維持・育成のやり方が大きく異なり、また課題も多岐にわたります。人によっては、無用とか迷惑と言われるみどり、例えば保護樹木に指定されている巨樹は、近所の住人から、落ち葉が多い、日陰になるとのクレームが来る樹木もあるそうですが、一方巨樹は街のシンボルとして、大切に残していかなばならぬとの意見も根強くあります。まちなかのみどりに関しては、それぞれの人の価値観が強くてくるので、悩ましいテーマです。

限られた資源（お金・人）の中で、どのような分野に注力していくかのコンセンサスを得るには、長く難しい道のりがあると思いますが、箕面のまちなかのみどりの現状を把握し、課題を発見し、解決策を探るための論議を進めるために、みのお市民まちなみ会議は、その材料を集め、提供することによって、より豊かなみどり景観を目指す方々のお役に立ちたいと活動しています。



## ただどぼくらはくじけない ～被災地の復興まちづくり～

箕面市役所 地域創造部 特定地域活性課 西山 央

苦しいことも あるだろさ  
悲しいことも あるだろさ  
ただどぼくらは くじけない  
泣くのはいやだ 笑っちゃおう 進め♪

皆さん岩手県大槌町をご存知ですか。

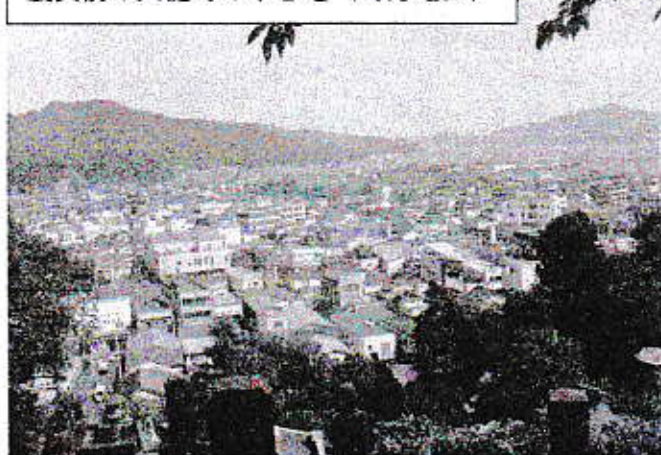
大槌町（おおつちちょう）は東北地方の釜石市と宮古市の間に位置する太平洋沿岸にあり、人口は箕面市の約 1/10、まちの自慢は鮭やあわび、うに等の豊かな海の幸や、昔、テレビ放映された人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルになったと言われている蓬莱島があります。

私は東日本大震災で甚大な被害を受けた、この大槌町への応援職員として、1年8ヶ月復興まちづくり事業のお手伝いをしてきました。今回、その経験を通して感じたことや、私たちが出来る支援について皆さんと一緒に考えたいと思います。

蓬莱島（ひょっこりひょうたん島）



震災前の大槌町の中心地（町方地区）



### ■忘れていませんか？東日本大震災の事

平成 23 年 3 月 11 日、14 時 46 分頃、東北の三陸沖で日本周辺における観測史上最大の地震（M9.0）が発生しました。その後、高さ 10 m を超える大津波が発生し、東北沿岸の町が次々と飲み込まれ、死者、行方不明者を併せて 2 万人以上が犠牲になりました。地元の話では、地震直後に大津波警報が発令されたときは、津波は最大 3 m と発表されたそうで、普段から避難訓練されていましたが、まさか、まち全体を飲み込んでしまう

大津波が来るとは思わず、避難せずに犠牲になった方も多数いらっしゃったそうです。大槌町でも、津波の痕跡等から、最大で 14 m 以上の大津波の襲来が確認されています。

一方同じ時刻、約 1000km 離れた箕面市では、揺れを感じたものの、大きな被害はありませんでした。しかし、家に帰ってテレビを付けると、どのチャンネルもずっと大津波の映像が流れており、あまりに非現実的な映像のため、映画のワンシーンを見ているような感覚になりました。あれから 4 年が経過し、大阪では被災地の報道は激減し、遠い昔に起こった出来事のような感覚の方も多いかと思いますが、今でも、被災地で暮らす多くの方は、将来への不安や、大切な人を失った心の傷等を抱えながら、不便な仮設住宅に暮らされています。